

(令和3年11月08日)

< ワンポイントレッスン (実践) >  
(最近のM・I (マーケット・インディケーター))

- ・このコーナー、「最近のM・I (マーケット・インディケーター)」は、今年3月22日が初回、7月19日が2回目、今回が3回目。初回のポイントは、「高値圏・要注意シグナルが多い」、2回目は収束度指数から「どちらかに保ち合い離れとなる可能性高い」でした。
- ・今回は、順位相関底値圏銘柄比率。テクニカルでの順位相関係数は、連続して上昇したか下落したかの指標、上昇・下落幅を問わないのが特徴。連続して下落したとみなす(デフォルトは9週・▼80に設定)銘柄が多くなり、マーケット全体の30%以上になった場合に、日柄整理が進んでいるとしたのが順位相関底値圏銘柄比率です。
- ・先々週、20%、先週28%と急ピッチで上昇してきました。

(順位相関底値圏銘柄比率、東証第一部)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

総括すれば、9月中旬以降の日柄整理の進展を示唆も、一方で。新型コロナ感染拡大で物色銘柄の二極化にも留意です。

(了)